

地域包括ケア推進会議における主な議論 (地域での対応方針・市レベルの課題)

平成30年度 第1回 松戸市地域ケア会議
平成30年8月2日

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理①

- 平成29年12月～30年5月の間、地域包括ケア推進会議は合計16回開催され、医療・介護・福祉・地域関係者等のほか、テーマに応じて、ボランティア・権利擁護機関・病院・子ども担当部署・警察・消防等が参加して、地域課題の解決に向けて議論が行われた。
- 推進会議では、課題解決に向けて、地域での対応方針を決定する。地域で解決できない課題がある場合には、そうした課題を抽出した上で、市レベルの課題につなげる。

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
1. 認知症の地域支援・普及啓発促進	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症が疑われる高齢者がいた場合の相談先やタイミングが分からない ○若い世代の認知症への理解が不足している ○認知症の人への理解や協力が十分ではないために、認知症の人がそれまで行ってきた活動が制限されてしまうことがある ○「認知症」という言葉に対する偏見や誤解があり、住民への周知が不十分である ○徘徊高齢者見守りの支援ネットワーク構築のための議論は活発であるが、確立には時間を要する 	<ul style="list-style-type: none"> ○独居で判断力理解力が低下、ゴミ出し等の日常生活に支障をきたしている【明2東】 ○80代女性。団体スポーツの趣味活動を楽しんできたが、認知症の出現により他のメンバーから参加を断られるようになってしまった【東部】 ○認知症により金銭管理ができず、高額商品を一日に何回も購入してしまう【五香松飛台】 ○夫婦ともに徘徊が頻回。スーパーで商品を鞆に入れてしまい万引き行為と間違えられる。 ○徘徊のある高齢者。徘徊探知機を何度も紛失してしまい、家族が疲弊している【馬橋】 	<ul style="list-style-type: none"> ○理事会やマンション向けに認知症サポーター養成講座の案内をする【本庁】 ○認知症になる前から、地域との関係づくりができるような活動を、地域ごとに増やしていく【東部】 ○町会単位など、小さな地域単位で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての啓発を行う【明2東・東部・五香松飛台】 ○学生が就労体験などを通し、高齢者に接する機会を設ける ○地域包括が商店街、銀行、郵便局、学校等との関係を強化し、早期に情報提供を受ける体制を整備 ○ふれあい広場や地元のイベント会場にて地域住民に地域包括の普及活動を行う ○各事業所開催の地域住民との交流の場等においてオレンジ協力員が活動する【馬橋】 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報誌等を通じて、認知症についての普及啓発を継続する ○小中学生向けに「認知症サポーター養成講座」を開催する 	<p>明2東 本庁 東部 五香松 飛台 馬橋</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理②

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>2. 社会資源の把握・開発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア情報の窓口が一元化されていない ○地域でボランティアの育成を推進することが必要 ○高齢男性が気軽に参加できる場の不足 ○高齢者の社会参加の場所が少ない ○体操教室等の自主化が進まない 	<ul style="list-style-type: none"> ○目と耳が不自由な人が通院受診の際に介助が必要だが、院内介助は介護保険の適用外のため、毎回付き添っている知人の負担が大きくなっている【明2西】 ○男性の独り暮らし。元気応援くらぶやサロンへの参加は好まず、外出の機会が少ない【明2東】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域内のボランティア関連の各組織・機関が連携する仕組みを作る。 ○ボランティアに少しでも関心のある住民が、専門的でなくてもボランティアを実践できる講座やワークショップを開催する【明2西】 ○自治会館を活用し、新たな通いの場を作ってはどうか【明2東】 ○町会でお茶飲み会を長く継続しているところがあるため、地域で集まりやすい場所や方法を考え、社会参加できる場所を増やす。【六実六高台】 ○地域包括や各町会等より、リハビリテーション連絡会へ指導者派遣の依頼をし、人材育成から始める。【新松戸】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア情報を提供する仕組みの構築 ○地域での様々な住民主体の活動の場・機会について、支援する体制の推進 	<p>明2西 明2東 六実六高台 新松戸</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理③

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>3. 外出支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○高低差等のために交通の便が悪い地域があり、外出しづらい ○近くに買い物へ行けるところがない ○認知症の方の運転免許自主返納について、支援が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通が不便な地区で運転免許を返納した認知症高齢者の介護者が疲弊している【常盤平】 ○認知症により運転ミスでの危険行為がしばしばあり、家族、支援者が返納を強く希望している【五香松飛台】 ○神経難病の高齢者が自動車運転を継続する危険性と近隣住民との騒音トラブルについて検討した【馬橋】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の身近な場所で集いの場を開催できるよう、情報収集、協力者探し ○地域の中で病院や企業、商店、事業所等に場所の協力を呼びかける ○ボランティア活動など、地域で友人を作る取組みを行っていく【矢切】 ○近隣住民が買い物ついでに必要な物がないか声をかける ○近隣住民が車でサロンへの送迎、外出支援をする ○地区社協の情報誌や町会・地区の情報誌、移動販売情報等をポスティングして周知する【常盤平】 ○地域の集まり等で運転免許の自主返納について講演（勉強会）を行う【五香松飛台】 ○自主返納経験者や体験者同士で意見交換できる場を提供する ○本人が信頼している人や地域の行事などを通して、見守りや声かけ、本人の気持ちの傾聴を行う体制を地域レベルで構築する【馬橋西】 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が乗車しやすいミニバスやコミュニティバスなど、交通手段の検討 ○現在検証運行中のコミュニティバスの範囲を検討 ○運転免許を自主返納した方に対する適切な情報提供 ○介護事業所と送迎車の活用についての協議 	<p>矢切 常盤平 五香松飛台 六実六高台 馬橋西 馬橋</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理④

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>4. ゴミ出し、買物等の生活支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○健康や環境等の問題により、タイムリーにゴミ出しをできず困っている ○地域資源の活用と周知の充実が必要である ○身近な人からの支援を負担に感じる方や頑固で支援を拒否する方の生活支援が難しい ○地域での見守り、支援体制が、町会や委員ごとに温度差がある。戸建とマンションなどで受けられるサポートに差がある 	<ul style="list-style-type: none"> ○独居の要支援者、訪問介護を週1回利用中。歩行、立ち上がり不安あり。ゴミ集積所まで100mあり、大きなゴミを一人で持てず、ヘルパーの訪問時間とも合わない【明1】 ○買物に困っているが公的支援を拒否。近隣に買物を頼み、頼まれた住民が戸惑っている。【五香松飛台】 ○体調によりサポートが必要な時があるが、マンションのボランティアや友人の支援では、干渉されることに負担感を感じる。 ○高齢者世帯。ゴミ出しなど今後サポートが必要になる可能性が高いが、支援してくれるボランティアが少ない。【新松戸】 	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣住民や民生委員、ヘルパー等が協力し合い、ゴミ出しの時間や方法を工夫する ○町会単位で、家庭ごみ訪問収集事業等のゴミ収集について啓発活動を行う【明1】 ○「五香松飛台いきいき安心ブック」に地区内の社会資源をまとめ、広く配布【五香松飛台】 ○地域包括で介護保険以外のサービスについてまとめ、周知する ○ボランティアについて、マンツーマンの関係にならないようにする ○信頼関係を築ける立場の人から関係性を作る ○地区によっては見守り、支援体制の整備がまだまだ難しい事が多いが、声かけを継続していく【新松戸】 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴミ収集についての情報提供と周知 ○ゴミ出しについて、戸別収集事業の適用範囲の検討 ○生活支援に関する地域資源情報の整理 ○民間サービスの周知、活動へのサポート 	<p>明1 五香松飛台 新松戸</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑤

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>5. 近隣とのつながり減少</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣とのつながりが減り、自分が抱える問題をどこに相談してよいかわからない ○介護者、要介護者ともに、話し相手や相談できる人がいない等、地域との繋がりがコミュニケーションが不足している ○様々な疾患から自宅に引きこもりがちになっている高齢者が地域と繋がる場所がない 	<ul style="list-style-type: none"> ○50代後半。配偶者と子2人の4人暮らし。3年前から発語が減るが専門医につながらず症状が進行した【明1】 ○交通が不便な地区で運転免許を返納した認知症高齢者の介護者が疲弊している【常盤平】 ○妄想など精神疾患のある高齢者が医療・介護サービスの利用を拒否しており、地域で孤立している【馬橋】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域包括が、民生委員やケアマネとの交流会を開催し、顔の見える関係を作る ○近隣住民と町会との関わりが持てるよう、男性のサロン等をつくれるとよい【明1】 ○町会単位で見守り隊をつくる ○集まれるサロンをマップにして配布する ○向こう三軒両隣の関係を作る ○挨拶やゴミ捨て時の声かけ ○子ども食堂など多世代交流の場を作る【常盤平】 ○地域包括が作成した資源マップを根付かせるため、内容・配布方法を検討する ○介護予防教室の周知について民生委員などに協力を仰ぐ【馬橋】 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉まるごと相談窓口等相談窓口の周知 ○地域につながりを持たない高齢者を把握し、必要時には支援機関につなぐ仕組みづくり 	<p>明1 常盤平 馬橋</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑥

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>6. 見守りネットワークの構築・情報共有の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○商店の人達と地域包括や民生委員等との情報共有や連携が十分にできていない。 ○集合住宅における課題は見守り・安否確認が困難ということだけでなく孤独死、救急搬送、災害時の課題もある ○地域で生活する高齢者に異変が起きたときに早期発見、早期介入ができるための見守り、相談、連絡、ネットワークの構築が必要である ○固定電話がなく、緊急通報装置が設置できないなど、緊急対応に不安がある高齢者が多い ○精神疾患がある方や、身体状況が悪い方の受け入れ施設が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症、独居。理解力低下により、集合住宅での住民間のマナー違反に当たる行動が出現。声かけをするが内容を理解できない様子がある ○多くの基礎疾患を抱え、認知機能の低下が疑われる独居高齢者。排尿障害があり集合住宅での共有スペースを汚してしまうため、住民とのトラブルが発生している【小金原】 ○自宅内での転倒が多いが電話がなく、助けを呼ぶことができない。生活保護という事もあり、固定電話の購入が難しい【新松戸】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地元商店会と地域包括による「高齢者の見守りに関する意見交換会」を行う ○地域ケア会議に商店会の代表者に参加してもらう【明2西】 ○マンション情報一覧の内容を濃いものにしていく。 ○地域と管理組合がつながることができるよう働きかけ、高齢者にまつわる課題を共有する【本庁】 ○住民と考案・作成した「みまもりあいマップ」の全戸配布。活用と周知方法についても検討【小金原】 ○コミュニティ内のつながりを強化する ○町会等、顔の見える関係の中で早期発見し、サービスに繋げる【新松戸】 	<ul style="list-style-type: none"> ○マンションの住民が地域とつながりをもてるよう、マンション管理者との連携や勉強会の実施等を検討 ○住民や商店等が行う見守り活動を支援する仕組みの充実 	<p>明2西 本庁 小金原 新松戸</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑦

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
<p>7. 医療連携 関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関が薬局との連携、活用を十分に図れていない ○服薬管理ができないため、見守りが必要な高齢者が多い ○ケアマネの役割の理解が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ○身体症状にまつわる不安あり、処方薬剤を自己調整し症状も不安定な状態。訪問看護やかかりつけ薬局などの医療機関の相談先を確保することを検討【本庁】 ○薬の管理ができず、大量の薬を余らせている独居高齢者 ○意思疎通困難な重度要介護者で、介護者がケアマネに強い拒否感があり、その介入や対応方法を検討した事例【常盤平】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で関係機関や住民に薬剤師の居宅療養管理指導についての周知を行う ○薬局と支援機関が、服薬状況等の情報をきちんと共有できるようにする【本庁】 ○服薬状況の見守り <ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民や民生委員、相談協力員の声掛け ・各町会に高齢者支援隊をつくる ○医師と薬剤師の連携による薬剤師の居宅療養管理指導の導入 <ul style="list-style-type: none"> ・薬の一包化・残薬の確認 ・薬の保管場所の統一 ○ケアマネと薬剤師の連携 ○介護保険を利用する際にケアマネ業務についてオリエンテーションを実施する ○多数の専門家や関係者が関わることで信頼関係を構築する【常盤平】 	<ul style="list-style-type: none"> ○訪問薬剤管理指導など薬に関する情報の周知 ○多職種によるケアマネジメント支援体制の強化 	<p>本庁 常盤平</p>

地域包括ケア推進会議における主な議論の整理⑧

テーマ	(1) 課題	(2) 関係する個別事例	(3) 地域での対応方針	(4) 市レベルの課題	(5) 地区
8. 救急搬送に関する こと	<ul style="list-style-type: none"> ○今後、後期高齢者の救急搬送が増加し、望まない延命治療が起こりやすい ○救急搬送時に必要な情報用紙等について周知が行き届いていない 		<ul style="list-style-type: none"> ○ふくろうシートの周知・活用 ○情報用紙を訪問時に配布する【小金】 	<ul style="list-style-type: none"> ○救急時の意思表示について必要な情報の周知 	小金
9. 詐欺詐欺	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者を狙う詐欺の手口が巧妙になってきているが、他人事と思っている地域住民が多くいる 	<ul style="list-style-type: none"> ○独居。認知機能の低下により複数回詐欺被害にあっているが、本人に自覚がない【東部】 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のサロンやふれあい会食会等で詐欺被害防止についての普及啓発を行う寸劇や実際の被害例の紹介等、啓発の方法についても工夫する【東部】 	<ul style="list-style-type: none"> ○詐欺について、金融機関や警察、消費者センター等と情報共有できる場があるとよい 	東部

別添

各地域包括ケア推進会議における 参加者・議題・議論

1. 明第1地区推進会議（平成30年5月22日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月22日 (火) 13:00~ 14:45	町会		医師		ケアマネ	1	1. ゴミ出しについて 2. 相談窓口について
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者	1	
	市社協		薬剤師	1	通所介護		
	民生委員	2	看護師	1	認知症デイ		
	ボランティア		保健師	1	グループホーム	1	
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			理学療法士	1	市役所	5	
			警察		(担当課3環境業務課2) 清掃会社1		
			消防				
						合計	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	健康や環境等の問題により、タイムリーにゴミ出しをできず困っている。	独居の要支援者、訪問介護を週1回利用中。歩行、立ち上がり不安あり。ゴミ集積所まで100mあり、大きなゴミを一人で持てず、ヘルパーの訪問時間とも合わない。	○	○近隣住民や民生委員、ヘルパー等が協力し合い、ゴミ出しの時間や方法を工夫する。 ○町会単位で、家庭ごみ訪問収集事業等のゴミ収集について啓発活動を行う。	○広報を活用してゴミ収集についての情報提供を行う。
イ	近隣とのつながりが減り、自分が抱える問題をどこに相談してよいかわからない。	50代後半。配偶者と子2人の4人暮らし。3年前から発語が減るが専門医につながらず症状が進行した。	○	○地域包括が、民生委員やケアマネとの交流会を開催し、顔の見える関係を作っておく。 ○近隣住民と町会との関わりが持てるよう、男性のサロン等をつくれるとよい。	○福祉まるごと相談窓口等相談窓口の周知 ○地域で集いを行うための場所の提供

2. 明第2西地区推進会議（平成30年1月10日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
1月10日 (水) 19:00～ 20:30	町会		医師	2	ケアマネ	6	1.今年度の個別ケア会議の事例モニタリング報告 2.地域課題の整理と地域包括支援センターの取り組み方針 3.グループワーク Aグループ：地域の見守りネットワーク Bグループ：地域でのボランティア情報の整理と共有について Cグループ：地域での認知症への理解促進と介護者支援について Dグループ：自立支援ケアマネジメントについて
	地区社協		歯科医師		介護事業者	7	
	市社協		薬剤師	2			
	民生委員	2	看護師	1			
	ボランティア		保健師	1			
	高支連	1	医療相談員		地域包括	7	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察		オレンジ 協力員	1	
		消防		合計	31人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	商店の人達は日頃の仕事の中で高齢者の見守りの意識を持っているが、地域包括や民生委員等との情報共有や連携が十分にはできていない。		○	○地元商店会と地域包括による「高齢者の見守りに関する意見交換会」を行う。 ○地域ケア会議に商店会の代表者に参加してもらう。	
イ	ボランティア情報の窓口が一元化されていない。	目と耳が不自由な人が通院受診の際に介助が必要だが、院内介助は介護保険の適用外のため、毎回付き添っている知人の負担が大きくなっている。	○	○地域内のボランティア関連の各組織・機関が連携する仕組みを作る。	○市のボランティア情報を一元化したり、情報提供する仕組みを考えてほしい。 ○院内ボランティアを増やす。

2. 明第2西地区推進会議（平成30年1月10日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	地域でボランティアの育成を推進することが必要である。		○	○ボランティアに少しでも関心のある住民が、専門的でなくてもボランティアを実践できる講座やワークショップを開催する。	
エ	包括主催の「介護者のつどい」への参加者が少ない。		○	○「介護者のつどい」という名称が分かりにくいので、対象、目的内容が具体的に明確に伝わる名称を考える。	
オ	地域ケア会議はケアマネジャーに対する支援機能を果たすべきであるが、そのような仕組みが不足している。		○	○地域ケア会議で自立支援型ケアプラン作成や地域マネジメント等をテーマにとりあげる。	

3. 明第2東地区推進会議（平成30年3月28日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
3月28日 (水) 17:45~ 19:15	町会	2	医師	1	ケアマネ	2	1.認知症が疑われる高齢者に対して地域住民として どう関わることが望ましいか 2.高齢男性の活動や交流の場が少ない
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	1	
	市社協	1	薬剤師				
	民生委員	1	看護師				
	ボランティア		保健師				
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察		住民		
			消防		オレンジ協 力員		
					合計	13人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	認知症が疑われる高齢者がいた場合の相談先やタイミングが分からない	独居で判断力、理解力が低下、ゴミ出し等の日常生活に支障をきたしている	○	認知症に対する理解が十分でないことが考えられる。町会単位での認知症サポーター養成講座の開催をする。	
イ	高齢男性が気軽に参加できる場の不足	男性の独り暮らし世帯。元気応援くらぶやサロンへの参加は好まず、外出の機会が少ない	○	通いの場はあるものの男性が好まない内容である。自治会館を活用し、新たな通いの場を作ってはどうか。	

4. 本庁地区推進会議（平成29年12月20日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
12月20日 (水) 14:30~ 16:00	町会	1	医師	1	ケアマネ	5	1.個別ケア会議から抽出された地域課題について「薬局の活用と連携を考える」 2.「セキュリティの高いマンションでは見守りが困難である」という課題に対する対応状況と検討 3.平成29年7月松戸市ケア会議の報告 4.次年度の地域ケア会議の運営について
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	3	
	市社協		薬剤師	2			
	民生委員	1	看護師				
	ボランティア		保健師	1			
	高支連		医療相談員		地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察		作業療法士	1	
			消防		理学療法士	1	
					後見人センター	1	
				合計	23人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	集合住宅における課題は見守り・安否確認が困難ということだけでなく孤独死、救急搬送、災害時の課題もある。		○	○地域と管理組合がつながることができるよう働きかけ、高齢者にまつわる課題を共有する。 ○マンション情報一覧の内容を濃いものにしていく。 ○理事会やマンション向けに認知症サポーター養成講座の案内。	○自治会に加入していないマンションと民生委員のつながりができる工夫
イ	関係機関が薬局との連携、活用を十分に図れていない。	身体症状にまつわる不安あり、処方薬剤を自己調整し症状も不安定な状態。訪問看護やかかりつけ薬局などの医療機関の相談先を確保することを検討。	○	○地域で関係機関や住民に薬剤師の居宅療養管理指導についての周知を行う。 ○薬局と支援機関が、服薬状況等の情報をきちんと共有できるようにする。	

5. 矢切地区推進会議（平成30年3月2日開催）

（1）参加者・議題

日時	参加者						議題
3月2日 (金) 19:30~ 21:00	町会	1	医師	2	ケアマネ	5	1.弁護士法人 よつば総合法律事務所 前田 徹弁護士より「介護における司法上の問題点～事例から学ぶリスクマネジメント～」について講演 2.質疑応答
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者	15	
	市社協	1	薬剤師	1			
	民生委員	1	看護師				
	ボランティア		保健師				
	高支連		医療相談員		地域包括	8	
			社会福祉士		市役所	2	
			警察		大学教授		
			消防				
				合計	37人		

（2）議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	介護のリスクにかかわる基礎知識の理解	施設でよくありがちなリスクに対しての対応方法について	○	事故発生時、先ず相手に対して謝意を表することが大切。ヒヤリハット報告に対する考え方を改善し、共有・再発防止に努める。	
イ	記録の書き方	記録を書く際に、事実と支援を書く時、情報を開示するとなるとどこまで書けばいいのか	○	記録を書く時は、開示される可能性を考えることが必要。	

6. 矢切地区推進会議（平成30年5月24日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月24日 (木) 15:00～ 16:30	町会	2	医師		ケアマネ	5	1.松戸市地域ケア会議報告 2.センターの活動報告 3.地域課題についての話し合い（栗山・上矢切等、地域の交通の便について）
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	6	
	市社協	2	薬剤師				
	民生委員	7	看護師				
	ボランティア		保健師				
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			社会福祉士		市役所	3	
			警察		大学教授		
			消防				
				合計	31人		

(2) 議論のまとめ

①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア 高低差等のために交通の便が悪い地域があり、閉じこもりがちになるリスクがある。		○	○地域の身近な場所で集いの場を開催できるよう、情報の収集を行い、協力者を探す。 ○地域の中で病院や企業、商店、事業所等に場所の協力を呼びかける。 ○ボランティア活動など、地域で友人を作る取組みを行っていく。	○高齢者が乗車しやすいミニバスやコミュニティバスの運行の検討

7. 東部地区推進会議（平成30年3月23日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
3月23日 (金) 13:30~ 14:30	町会		医師		ケアマネ		1.東部高齢者いきいき安心センターの活動報告 2.市地域ケア会議の報告 3.個別ケア会議の報告 4.個別ケア会議で把握された地域課題について
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協	1	薬剤師				
	民生委員		看護師				
	ボランティア		保健師				
	高支連	7	医療相談員		地域包括	4	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察				
			消防				
				合計	13人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	認知症の人への理解や協力が十分ではないために、認知症の人がそれまで行ってきた活動が制限されてしまうことがある。	○80代女性。団体スポーツの趣味活動を楽しんできたが、認知症の出現により他のメンバーから参加を断られるようになってしまった。	○	○認知症になる前から、地域との関係づくりができるような活動を、地域ごとに増やしていく。 ○小さな地域単位で認知症サポーター養成講座を開催し、認知症についての啓発を行う。	○広報誌等を通じて、認知症についての普及啓発を継続する。

7. 東部地区推進会議（平成30年3月23日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
イ	高齢者を狙う詐欺の手口が巧妙になってきているが、他人事と思っている地域住民が多くいる。	○80代女性、独居。認知機能の低下により複数回詐欺被害にあっているが、本人に自覚がない。	○	○地域のサロンやふれあい会食会等で詐欺被害防止についての普及啓発を行う。寸劇や実際の被害例の紹介等、啓発の方法についても工夫する。	○詐欺について、金融機関や警察、消費者センター等と情報共有できる場があるとよい。

8. 常盤平地区推進会議（平成30年2月15日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
2月15日 (木) 13:30～ 15:30	町会	13	医師	2	ケアマネ	5	1. 松戸市ケア会議報告 2. 地域ケア会議の3層構造について 3. 社会資源の不足している地域の事例に対し、各グループで課題を抽出し、解決策の議論
	地区社協		歯科医師		介護事業者	1	
	市社協	1	薬剤師		司法書士	1	
	民生委員	1	看護師		NPO	1	
	ボランティア		保健師				
	高支連	4	医療相談員	2	地域包括	6	
	一般市民		社会福祉士		市役所	1	
			警察				
			消防				
					合計	38人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	介護者、要介護者ともに、話し相手や相談できる人がいない等、地域との繋がりやコミュニケーションが不足している	交通が不便な地区で運転免許を返納した認知症高齢者の介護者が疲弊しているケース。	○	<ul style="list-style-type: none"> ○町会単位で見守り隊をつくる ○集まれるサロンをマップにして配布する ○向こう三軒両隣の関係を作る ○挨拶やゴミ捨て時の声かけ ○子ども食堂など多世代交流の場を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ○新生児訪問があるように、高齢者の個別訪問をする体制づくり ○個人情報が必要な時には地域に周知できる仕組み ○場所づくりの資金援助
イ	近くに買い物へ行けるところがない		○	<ul style="list-style-type: none"> ○近隣住民が買い物ついでに必要な物がないか声をかける ○近隣住民が車でサロンへの送迎、外出支援をする ○地区社協の情報誌や町会・地区の情報誌、移動販売情報等をポスティングして周知する 	<ul style="list-style-type: none"> ○送迎支援 ○買い物等のために低価格で運転代行等を使える券の発行 ○有償ボランティアの体制整備

9. 常盤平地区推進会議（平成30年5月24日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月24日 (木) 13:30~ 15:30	町会	15	医師	2	ケアマネ	7	1. 松戸市ケア会議報告 2. 地域ケア会議の3層構造について 3. ①個別事例に対して地域で出来ること 行政への提言、グループワーク、発表 ②昨年度の会議内で出た地域で出来ること ③実際に行われている事例 （八景台町会の事例・ひまわり会の事例） 4. 松戸システムⅡ（薬剤師からの報告）
	地区社協		歯科医師	2	介護事業者		
	市社協	2	薬剤師	3	司法書士	1	
	民生委員	1	看護師		NPO	2	
	ボランティア		保健師	1	PT	7	
	高支連	2	医療相談員	2	地域包括	6	
	一般市民		社会福祉士	1	市役所	2	
	学生	1	警察				
			消防				
					合計	57人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	服薬管理ができないため、見守りが必要な高齢者が多い	薬の管理ができず、大量の薬を余らせている独居高齢者	○	○服薬状況の見守り ・近隣住民や民生委員や相談協力員の声掛け ・各町会に高齢者支援隊をつくる ○医師と薬剤師の連携による薬剤師の居宅療養管理指導の導入 ・薬の一包化・残薬の確認 ・薬の保管場所の統一 ○ケアマネと薬剤師の連携	○薬局の活動に対してのPR（相談会、居宅管理指導） ○かかりつけ薬局の周知
イ	ケアマネの役割の理解が必要である	意思疎通困難な重度要介護者で、介護者がケアマネに強い拒否感があり、その介入や対応方法を検討した事例	○	○介護保険を利用する際にケアマネ業務についてオリエンテーションを実施する ○多数の専門家や関係者が関わることで信頼関係を構築する	○市民向けに、介護保険の利用やケアマネの役割についての理解を促す勉強会の開催やケアマネ以外にも相談できる窓口の周知を行う。 ○ケアマネ支援体制の強化（ケアマネのアセスメント支援）

10. 五香松飛台地区推進会議（平成30年2月15日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
2月15日 (木) 10:00 ～12:00	町会	1	医師	3	ケアマネ	1	1.今年度行った個別事例を基に「地域課題」「市の課題」を抽出 2.今年度の活動報告 3.来年度の取り組み
	地区社協		歯科医師		介護事業者		
	市社協	1	薬剤師	1	特養職員	2	
	民生委員	1	看護師				
	ボランティア		保健師				
	高支連	1	医療相談員		地域包括	5	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察		精神保健福祉士	1	
			消防		病院事務長、リハ	2	
					合計	20人	

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	若い世代の認知症への理解が不足している	認知症により金銭管理ができず、高額商品を一日に何回も購入してしまう。	○	地域の方向けの「認知症サポーター養成講座」を開催。	○「認知症サポーター養成講座」を小・中学校のカリキュラムに組み込み、定期的を開催する。
イ	認知症の方の運転免許自主返納が 困難である	認知症により運転ミスでの危険行為がしばしばあり、家族、支援者が返納を強く希望している。	○	地域の集まり等で運転免許の自主返納について講演（勉強会）を行う。	○自主返納した方への特典を増やして欲しい。（表彰・公共交通機関の補助・地域商店街の商品券等）
ウ	地域資源の活用と周知の充実が 不十分 である	買物に困っているが公的支援を拒否。近隣に買物を頼み、頼まれた住民が戸惑っている。	○	「五香松飛台いきいき安心ブック」に地区内の社会資源をまとめ、広く配布。	○松戸市全体の社会資源ブック（マップ）があると地域外でも勧める。 ○有償ボランティア制度の検討を行い、サロン等を増やす。

1 1. 六実六高台地区推進会議（平成30年5月30日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月30日 (水) 13:30～ 15:30	町会		医師		ケアマネ	6	1.参加委員の自己紹介 2.地域ケア会議について 3.平成29年度 地域包括支援センターの活動報告 4.平成29年度 これまでの松戸市地域ケア会議・地域個別ケア会議の報告 5.課題検討：個別ケア会議より～社会参加と地域活動～ 6.次回以降の地域ケア会議について 7.その他 ・元気応援クラブ「通いの場」作りについて ・松戸市薬剤師会より
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	5	
	市社協		薬剤師	1	特別養護老人ホーム	1	
	民生委員	1	看護師				
	ボランティア		保健師	1			
	高支連	1	医療相談員		地域包括	4	
	老人会	1	社会福祉士		市役所	2	
	通所方元気応援クラブ	1	警察		理学療法士 1名		
		消防					
				合計	26人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	高齢者の社会参加の場所が少ない		○	○町会でお茶飲み会を長く継続しているところがあるため、地域で集まりやすい場所や方法を考え、社会参加できる場所を増やす。	
イ	交通の不便さがあり、外出がしづらい。病院への通院も大変。				○市役所や市立病院を運行する安価な交通手段の検討

12. 小金地区推進会議（平成30年5月30日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月30日 (水) 10:00~ 12:00	町会	1	医師	1	ケアマネ		1. 小金地区の人口動態、高齢化率、介護の状況等について 2. 緊急時における対応方法・連絡先の確認手段について 3. 小金地区の高齢者支援の状況の共有と課題について
	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		
	市社協		薬剤師				
	民生委員	2	看護師	1			
	ボランティア		保健師				
	高支連	1	医療相談員		地域包括	2	
			社会福祉士		市役所	4	
			警察		子ども家庭相談課 1		
		消防	2				
				合計	16人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	今後、後期高齢者の救急搬送が増加し、望まない延命治療が起こりやすい。		○	ふくろうシートの周知・活用	○民生委員への避難者リストの配布・活用について検討 ○ふくろうシートについて一般高齢者、意思決定困難者への対応マニュアルの構築 ○ふくろうシートの周知
イ	救急搬送時に必要な情報用紙等について周知が行き届いていない。		○	情報用紙を訪問時に配布する。	○周知について浸透するよう工夫する。 ○救急時の意思表示ツールについて情報を発信する。 ○市で統一の設置場所を共有できるようにする。

13. 小金原地区推進会議（平成30年1月16日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
1月16日 (火) 13:30~ 15:00	町会	5	医師	1	ケアマネ	5	1.地域ケア会議についての理解 2.平成29年度第1回地域包括ケア推進会議のまとめ(報告) 3.平成29年度第3回、第4回地域個別ケア会議の検討内容について(報告) 4.①小金原地区「みまもりあいマップ」 「社会資源マップ」の全戸配布以外の周知方法 ②認知症の方を関わる中での困りごとや問題点について(グループワーク)
	地区社協	1	歯科医師	1	介護事業者	2	
	市社協		薬剤師	1			
	民生委員	1	看護師	1			
	ボランティア		保健師	1			
	高支連	2	医療相談員	1	地域包括	5	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察	1	認知症コーディネーター		
			消防		作業療法士	1	
				合計	30人		

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	地域で生活する高齢者に異変が起きたときに早期発見、早期介入ができるための見守り、相談、連絡、ネットワークの構築が必要である。	○認知症、独居。理解力低下により、集合住宅での住民間のマナー違反に当たる行動が出現。声かけをするが内容を理解できない様子がある。 ○多くの基礎疾患を抱え、認知機能の低下が疑われる独居高齢者。排尿障害があり集合住宅での共有スペースを汚してしまうため、住民とのトラブルが発生している。	○	○住民と「みまもりあいマップ」を考案・作成し、全戸配布を決定した。地域の社会資源やお互いに見守りあうという視点から活用と周知方法についても検討した。 ○住民・民生委員・高齢者支援連絡会・町会・包括・介護サービス事業所が連携し、地域で協力したチームアプローチを行えるようにする。	「みまもりあいマップ」を市全体で活用する。

14. 新松戸地区推進会議（平成30年5月17日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
5月17日 (木) 10:00 ~12:00	町会		医師	1	ケアマネ	3	1.新松戸地域包括支援センター活動報告 2.推進、個別ケア会議の振り返り(H29年11月・H30年1月・3月) 3.グループワーク地域診断「現状から考える課題と対応～我々ができること」 4.その他 松戸市歯科医師会、松戸市薬剤師会より
	地区社協		歯科医師	1	介護事業者	3	
	市社協	1	薬剤師	1	小規模多機能	1	
	民生委員	2	看護師	1	リハビリ	2	
	ボランティア		保健師	1			
	高支連	1	医療相談員	1	地域包括	3	
			社会福祉士		市役所	3	
			警察				
		消防					
				合計	25人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	身近な人からの支援を負担に感じる方や頑固で支援を拒否する方の生活支援が難しい。	体調によりサポートが必要な時があるが、マンションのボランティアや友人の支援では、干渉されることに負担感を感じる。	○	○地域包括で介護保険以外のサービスについてまとめ、周知する。 ○ボランティアについて、マンツーマンの関係にならないようにする。 ○信頼関係を築ける立場の人から関係性を作る。	○民間サービスの周知、活動へのサポート
イ	固定電話がなく、緊急通報装置が利用できないなど、緊急対応に不安がある高齢者が多い。	自宅内での転倒が多いが、電話がなく、助けを呼ぶことができない。生活保護という事もあり、固定電話の購入が難しい。	○	○コミュニティ内のつながりを強化する。	○固定電話設置費の貸付制度などの検討 ○マンション管理者との連携や勉強会の実施

14. 新松戸地区推進会議（平成30年5月17日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	地域での見守り、支援体制が、町会や委員ごとに温度差がある。戸建とマンションなどで受けられるサポートに差がある。	高齢者世帯。ゴミ出しなど今後サポートが必要になる可能性が高いが、支援してくれるボランティアが少ない。	○	○地区によっては見守り、支援体制の整備がまだまだ難しい事が多いが、声かけを継続していく。	○ゴミ出しについて、戸別収集事業の拡大
エ	体操教室等の自主化が進まない。		○	○地域包括や各町会等より、リハビリテーション連絡会へ指導者派遣の依頼をし、人材育成から始める。	○指導者派遣の依頼等、人材派遣に関するサポート体制の整備 ○各町会単位で運動指導者を養成していく枠組み作り
オ	精神疾患がある方や、身体状況が悪い方の受け入れ施設が不足している。		○	○町会等、顔の見える関係の中で早期発見し、サービスに繋げる。	○施設の増設 ○住民の見守り活動についてサポート体制の充実

15. 馬橋西地区推進会議（平成30年1月26日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
	町会		医師		ケアマネ		
1月26日 (金) 19:00 ~20:30	地区社協	1	歯科医師		介護事業者		<ul style="list-style-type: none"> ・センター実績及び活動報告 ・地域個別ケア会議の振り返り ・生活支援コーディネーターに期待される機能と役割 ～馬橋西地区における 活用出来る地域社会資源とは～ 地域で実在する「高齢者ドライバー」について
	市社協	2	薬剤師	1			
	民生委員	3	看護師	1			
	ボランティア		保健師	1			
	オレンジ 協力員	1	医療相談員		地域包括	5	
			社会福祉士	1	市役所	1	
			警察		法人職員	1	
			消防				
				合計	18人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	日常的に車の運転を主としてきた方が免許返納を迫られた時、代替策が不足している。		○	<ul style="list-style-type: none"> ○経験者や体験者同士で意見交換できる場を提供する。 ○本人が信頼している人や地域の行事などを通して、見守りや声かけ、本人の気持ちの傾聴を行う体制を地域レベルで構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者ドライバーに対する運転マニュアルを作成する。 ○警察署、交通安全協会などと共同して広報、周知活動を行う。 ○運転免許返納者に対して特典をつける（公共交通機関の割引や優遇） ○松戸市全域にコミュニティバスを発動させる。 ○デイサービス事業所と送迎車の活用について協議する。 ○移動販売車を導入する。

16. 馬橋地区推進会議（平成30年3月1日開催）

(1) 参加者・議題

日時	参加者						議題
3月1日 (木) 9:30~ 11:00	町会		医師	1	ケアマネ		1.平成30年2月松戸市ケア会議の報告 2.個別ケア会議で抽出された地域の課題について検討 3.各地域密着型事業所からの報告 4.その他連絡事項
	地区社協		歯科医師		介護事業者	8	
	市社協		薬剤師	1	作業療法士	1	
	民生委員	1	看護師	1	理学療法士	1	
	ボランティア		保健師	1	NPO法人	1	
	高支連		医療相談員		地域包括	4	
			社会福祉士		市役所	1	
			警察				
		消防					
				合計	21人		

(2) 議論のまとめ

	①課題	②関係する個別事例 (①に關係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ア	徘徊高齢者見守りの支援ネットワーク構築のための議論は活発であるが、確立には時間を要する。	徘徊のある高齢者。徘徊探知機を何度も紛失してしまい、家族が疲弊している。状況は深刻であるが、周囲への周知を拒否しているため、見守りにも苦慮している。	○	○地域包括が商店街、銀行、郵便局、学校等との関係を強化し、早期に情報提供を受ける体制を整備。 ○ふれあい広場や地元のイベント会場にて地域住民に地域包括の普及活動を行う。	
イ	「認知症」という言葉に対する偏見や誤解がある。年齢を問わず住民への周知がまだ不十分である。	夫婦ともに徘徊が頻回。スーパーで商品を鞆に入れてしまい万引き行為と間違えられてしまう。	○	○各事業所開催の地域住民との交流の場等においてオレンジ協力員に活動していただく。 ○学生が就労体験などを通し、高齢者に接する機会を設ける。 ○オレンジ協力員が活躍できる場の提供。	○包括が行う認知症の理解促進活動に関し、助言をする。

16. 馬橋地区推進会議（平成30年3月1日開催）

	①課題	②関係する個別事例 (①に関係する個別事例がある場合に記入)	③地域での 解決の是非 (○・×)	④地域での対応方針 (③が○の場合に記入)	⑤市レベルで期待すること (任意記入)
ウ	<p>様々な疾患から自宅に引きこもりがちになっている高齢者が地域と繋がる場所がない。</p>	<p>○妄想など精神疾患のある高齢者が医療・介護サービスの利用を拒否しており、地域で孤立している。 ○神経難病の高齢者が自動車運転を継続する危険性と近隣住民との騒音トラブルについて検討した。</p>	○	<p>○包括が作成した資源MAPを根付かせるため、内容・配布方法を検討する。 ○介護予防教室の周知について民生委員などに協力を仰ぐ。</p>	○現在実証運行中のコミュニティバスの範囲拡大